

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	社会福祉法人 釧路啓生会 グループホーム きたぞの	評価実施年月日	平成20年2月25日
評価実施構成員氏名	菅原 鯉口 河本 江崎 川尻 網谷 紺野 笛木		
記録者氏名	菅原裕子	記録年月日	平成20年2月29日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

■は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>事業所の理念をもとに地域に根ざし、互いに支えあえるグループホームを目指している。</p>	○	<p>近隣住民に幅広く理解してもらえるよう努める。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を理解し、実践していくことを常に心がけている。入居者の生活支援や、状態変化に伴うケア内容の変更、確認時においても、理念に沿った対応を心がけている。理念に沿ったケアを実践する為、毎月GH会議で検討している。</p>		<p>毎月ユニット内で理念に沿った目標を立て、ケアの質の向上に繋げている。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族に日常生活を伝える際や、ボランティアさん、運営推進会議の際に、理念をもとにした対応を行っていることを伝えている。また、ホームの理念を理解してもらえるよう、ホームない行事への参加呼びかけを行っている。(園芸ボランティア、収穫祭、ふれあいランチ)</p>		<p>ホームの広報誌に記載し町内に回覧しているので、理解していただけるよう努めている。今後も継続する。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩や外出時には積極的に挨拶するよう心がけている。ホーム庭に隣接しているサイクリングロードを散歩している住民の方々は気軽に手を振ってくれることが度々ある。</p>	○	<p>地域との交流の機会を増やしていく。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>当ホームは町内会の特別会員となっており、盆踊り、焼肉パーティ等に誘いを受け、参加している。今年は小学校の運動会、学芸会にも誘っていただいている。</p>	○	<p>今年度は小学校の運動会や学芸会にも誘っていただいている。積極的に参加して行きたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>検討し、積極的に取り組んで行きたい。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>意義を理解し、サービスの改善、向上に繋げている。</p>	○	改善する点などあれば見直し改善する。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議では、委員の皆様に入居者の生活状況を視察していただいてから、入居者の生活とサービスの状況報告を行い、ご意見をいただき、サービス向上にいかしている。</p>		フロアーリーダーも参加し、意見を参考にサービス向上に努めている。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>地域包括ケア会議に出席し、情報を得てサービスの質の向上に取り組んでいる。運営推進会議録、ホーム便りを市役所担当者に提出し、ホームの状況を報告している。都度、アドバイスもいただいている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修を受けて、理解に努めている。将来、必要になる方については、市役所に相談する等、活用できるように支援する。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>研修参加等で学んでいる。虐待については日常的に、又は、会議の中で話し合い防止に努めている。</p>		入浴時、着替えの際には、身体を観察するなど、注意を払っている。また、言葉による虐待にも注意し、職員が互いの言葉をチェックし合えるよう心がけている。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時には、重要事項説明書にて十分な説明を行い、入居者、契約者からの疑問、不安な点に対して、理解、納得していただいている。また、地域運営推進会議の中で、必ず入居者自身に、日常生活のなかで、困っていることなどを尋ねている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常に、入居者が意見を率直に言える雰囲気づくりを心がけている。また、ホーム玄関内に苦情箱を設置して、家族等の意見、苦情にも対応できるようにしている。		意見や苦情があった場合、解決に向け、速やかな対応をおこなっている。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	その都度、家族来訪時、電話等で、暮らしぶりや健康状態等を報告している。		広報誌(隔月発行)にて、写真や日常の様子を載せて知らせている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎年7月に家族懇談会を開催している。家族とは常にコンタクトをとっており、何でも話していただけるような雰囲気作りに努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回会議をおこなっている他、毎朝ミーティング等で、意見、発言の機会を設け迅速かつ適切な対応をしている。又、食事会等も不定期ではあるが開催し、話しやすい雰囲気作りにも努めている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じて対応している。入居者の身体状況の変化に伴い現在もA3(10:00~19:00)勤務をA5(12:00~21:00)に変更して対応している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	1度に多人数の入れ替えを行わないように心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>当法人では、採用になると、新人研修、3ヶ月研修、6ヶ月研修、1年研修と段階を踏んだ研修にて、育成している。中途採用者の研修も行っている。</p>	<p>○印</p> <p>OJTを通して育成を行っている他、外部での研修の機会も与えられている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>市内に連絡協議会があり、その中で、交換研修やスタッフ研修等に参加し、サービスの質の向上に励んでいる。</p>	<p>○</p> <p>今後も交換研修、スタッフ研修に積極的に参加していく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>新人職員には、折を見て意見を聞くようにしている。中堅職員にも、いつでも意見が言える状態を心がけている。また、法人の職員会が年3回とホーム独自の食事会年2回で職員間のコミュニケーションを図っている。</p>	<p>○印</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>人事考課導入により、上司との面接実施〔一部職員〕、毎月のGH会議、人材育成研修等を実施している。また、法人の昇格基準をもとに、正職員や準職員に登用されている。</p>	<p>○印</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面談で生活状況、身体状況を把握し、利用していた施設、入院施設、ケアマネジャーからの情報も参考にしながら、本人の話を傾聴し、その人の思いに沿った支援につなげる。</p>	<p>○印</p> <p>今後も継続して行く。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>同上</p>	<p>○印</p> <p>ホームでの生活と家族のニーズに相違がないよう、しっかりと受け止め話し合う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の思いに傾聴し、必要な支援に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の事前見学時に、入居者と一緒にお茶を飲んで会話をしたりして、ホームの雰囲気に馴染んでいただけるようにしている。		今後も継続する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	裁縫の得意な入居者から、縫い物を習ったり、家事仕事の好きな入居者と食事作りを一緒にしている。人生の先輩であり、敬うという気持ちを常にもちながら接することで、会話のなかで優しく自然に「ありがとう」と言っている。		裁縫時、ただ行ってもらうだけでなく、縫い方を教えてもらう姿勢で接することで、入居者に笑顔や、生き生きとした表情がみられている。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族には常に近況を報告し、協力も得られている。行事等への参加の呼びかけにも熱心な協力が得られている。		来訪の少ない家族さんには、電話にて近況報告をしたりし、関係が保たれるよう支援している。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族来訪時に、心身の状況、毎日の生活状況等を伝えている。ホームで行われる行事や併設の特養の行事等の参加で家族との交流が図られている。	○	ホームでは、7月に家族懇談会、野遊会、を行い家族間の交流をはかっている。今年度は、収穫祭も計画している。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	入居者や家族からの要望があれば、外出、電話、面会は自由にさせていただいている。会いたい人に会えるよう支援している。		入居者からの要望で、ホーム入居前に住んでいた自宅を訪れ、大変喜ばれたため、定期的に(希望のある)入居者の自宅や馴染みの近辺に車で出かけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	朝の体操、余暇活動、等で一緒に楽しんだり、介護員を交えて会話をしたりして、孤立することのないようにしている。		入居者同士で声を掛けて、誘い合っている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	要望に応じ、随時相談を受け入れる。		今後も継続する。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向に沿った暮らし方をさせていただいている。自分の暮らし方を組み立てられないかたには、どのような形がその人にベストなのかを、常に模索し、寂しさや、孤独感を抱かないように、他の入居者との交流や、寄り添いを多くもつよう対応している。		センター方式アセスメントを活用している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの聞き取り、他入居者との関わりや、その人との会話の中から探っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	常に見守り、観察し、介護員同士の情報交換で現状を把握している。		介護日誌、連絡ノートを活用している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の意向に沿った暮らし方を第一に考え、家族や必要な関係者の意見やアドバイスをもとに作成している。家族来訪時確認していただいている。		誰が見てもわかるように、サービス内容を作成している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者の状態の変化に即し、本人、家族の意向を尊重し、その都度プランを検討し作成している。		必要に応じてサービス担当者会議を開きプランに反映させている。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画と生活の様子を記録し、情報を把握して介護計画に反映している。		介護日誌で状態を把握し、チーム内において検討し、見直しがあるときにはプランの変更をおこなっている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設の特養ホームの喫茶売店、理容室を利用している。		併設されている施設のイベントに参加している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して暮らしを続けられるよう、警察の定期巡回時には、必要に応じた情報を提供している。消防との協力体制については、隣設する特養と一体になっておこなっている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は無いが、必要があれば担当ケアマネと話し合う。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に包括支援センター職員が出席しており、周辺情報や支援に関する情報交換をし協働関係を築いている。		意見交換、相談、アドバイス等を参考にしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	殆どの入居者は在宅時からのかかりつけ医を受診している。事情によっては送迎車両も出している。		協力医として、内科は厚生医院(4名受診)で歯科は加藤歯科となっている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	特養の嘱託医として、優心病院の医師を配置しているので受診しやすい環境にある。		今後については、協力医としての交渉もしたい。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	毎日、隣接の特養看護師が入居者の健康状態観察をおこなっている。入居者も顔見知りとなっており、気軽に健康相談ができています。		定期的にバイタル測定をおこなっている。入居者の状態変化時はかかりつけ医に看護師としての所見を情報として提出している。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院が必要か否かは医師の判断と考えるので、問い合わせや協力依頼があった場合には速やかに対応できる体制がある。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人、家族と「看取り介護について」話し合い、書面を交わしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居者、家族と看取り介護についての書面を交わし、希望に沿った対応をおこなう。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ダメージを最小限に抑えるため、できるだけ詳細な情報を提供することに努めている。また、住み替え前の生活環境が継続できるよう、なじみの家具、生活用品等の持ち込みをお願いしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>その人の尊厳を尊重した言葉かけや対応に、全職員が心がけて実践している。又、自尊心を損ねるような記録類の扱いもしていない。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>わかる力に合わせた説明を行い、自己決定を働きかけているが、日々の会話の中から思いを汲み取り、その人が納得して暮らせるよう支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者のペースに合わせ、その人の思いや希望を優先するように対応している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>衣類は自分で選んでもらい着用している。髪は、特養の床屋を利用している。家族と外出し美容室(カット、パーマ)に行く人もいる。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者の好みに合わせ、同じ料理でも材料を替えて二通り作っている(肉、卵、練り物、乳製品が苦手)。食事作りは入居者と一緒に行く。下準備の手伝い、できる範囲の調理、味付け、配膳、茶碗洗い、茶碗拭きなど。</p>		<p>料理の下準備、食事の後片づけなどは役割が決まっており、入居者同士良い関係で行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒を希望される入居者はいないが、飲み物、おやつなどは日常的に楽しんでいる。他3名の入居者が喫煙している。		煙草は、起床後7時より就寝するまでの間で、希望するときに所定の場所にて、喫煙している。おやつは、午後3時頃リビングにて、全員揃っていた。その他、各自管理している方は好きな時に食べている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を用い、その人の状況に応じた、排泄への言葉掛け、誘導介助を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週6日実施している。一人ひとりの希望にできるだけ添うように工夫している。		熱めの風呂が好きな入居者には、早めに入ってもらおう配慮をしている。湯船にミカンの皮やリンゴの皮を入れて入居者に喜んでもらっている。入浴を拒否することが多い入居者にも入ってもらえることが多い。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の生活を活動的にし生活のリズムを整えるよう支援しているが、習慣的に昼食後に休息をとる方が何人かいる。		外出、散歩、毎日の体操等で活動量を増やし、夜間の安眠につなげている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の下準備、茶碗洗い、茶碗拭き、配膳等の軽作業を楽しみにしている。希望者が多く、交替で行うこともある。		個々の能力に応じて、残存機能を少しでも維持していけるように支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理可能な方は自身で行っていて買い物も自由にしている。今後も継続して行く。		買うもの(欲しい物)によっては、家族に連絡したり、同行して買い物をする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブ、自宅への外泊など希望に沿って実施している。	○	外食も行っている。入居者からの評判が良いため、回数を増やして行きたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者の希望にそって花見、紅葉狩り、以前住んでいた町並み等へ出かけている。家族と一緒に泊りがけや、日帰りの温泉を楽しんで来る人もいる。		入居者の希望に沿ったドライブを今後も続けていく。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	玄関前のホールに公衆電話を設置し自由に使用できる。手紙、年賀状などは希望によって支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自由に気兼ねなく訪問してもらえるよう笑顔でお迎えし、お茶やコーヒーでもてなし、ゆっくりして頂けるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを実践している。		全職員が理解できている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ホーム北側は湿原に面しているため、玄関の内外から開閉できる錠を設置しているが、入居者も開けられる状態にある。リビングから中庭への出入りは自由に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者のプライバシーに配慮しながら、常に、所在、安全確認をしている。入居者が自由に移動できるよう、環境整備にも配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険物は取り除くのではなく、所定の場所に保管する。入居者の状態に合わせ、管理できる方は、はさみ、裁縫道具等使用してもらっている。		刃物、漂白剤、洗剤等は夜間は手の届かない戸棚に保管している。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	環境整備、行方不明捜索訓練を行い、与薬マニュアル、急変時の対応マニュアル等を揃えている。		与薬はマニュアルに沿って行う。全員が気配りし事故を未然に防ぐ意識もっている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	火災避難訓練、救命講習、地震、行方不明捜索訓練を定期的に行っている。火災、地震、行方不明時の非常召集連絡網を整備している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	隣接している特養と連携をとり、火災、地震、行方不明時には救援にくる体制が整っている。	○	近隣の住民にも町内会を通してお願いしている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	日頃より入居者の状態を把握し、起こり得るリスクについては、家族等に説明し理解していただいている。また、状態変化に伴い、新たなリスクが予測される場合においても、その都度説明しているが、本人、家族が納得できる生活が支援できるよう努めている。		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタル測定、水分、食事摂取状態、排泄状況、表情、言語、歩行状態等を観察し、チェック表に記録し、状態変化の早期発見に努めている。看護師も日常の状態をチェックしており、速やかな対応がとれている。		看護師との、報告、連絡、相談は密にとれている。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者の個人ファイルに薬の処方箋を綴じ確認しながら、薬の用法、用量の把握に努めている。		薬の分包は看護師が行う。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	腸の働きがよくなるよう毎日体操を行っている。また、朝食時ヨーグルト摂取、水分1日1000ml以上の摂取、献立の工夫、生活リズムを整える等の取り組みをしている。		その他夏季は、外気浴、散歩、冬季間は、室内で歩行運動を行っている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後、お茶を摂取したあと、声かけや誘導にて、入れ歯洗浄、歯磨き、うがい等をおこなっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分量はチェックし記録している。朝、夕の食事は栄養士管理のもとで、栄養バランスの取れた食事が提供されている。昼食はホームで、入居者の好みを取り入れた食事をつくっている。		個々の好みを把握し、同じ料理でも肉入り、肉なしと2種類作っている。また、入居者の状態に合わせ、硬いものは小さく切る、骨を除く等の対応をしている。当日の身体状況、食欲に合わせ、別の副食も用意している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを整備しノロウイルス、インフルエンザ流行時には、その対策を実践している。うがい、手洗い、手指消毒、温度、湿度、換気の調整等。インフルエンザの予防接種は入居者、職員の全員が受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具は毎日洗浄し消毒している。新鮮で安全な食材を使用するように心がけている。		食材の買い置きを少なくし、都度新鮮な食材を購入している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前には手すりがついて、歩きやすいようになっている。夏は玄関入り口までのインターロッキングのスロープに鉢植えを置いている。		冬場は玄関先の雪かきをこまめに行い、来客者、入居者が安全に安心して出入りできるようにしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレ内の壁紙の色調は温かみの感じられる家庭的なものにしている。		各居室の入り口にのれんを下げ家庭らしさを出している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングのダイニングテーブルや、食卓テーブル、応接セットに座る方が決まっている。自分の居場所ができています。		居場所に問題が発生した時は、席を替えたり、介護員が寄り添うことで対処している。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人馴染みのものを持ち込み、自室でゆったりと過ごされている方がいる反面、自室内の物をまとめてしまい、部屋としてのたたずまいを整えるのが困難な方もいる。	○	今後も居心地よく過ごせる工夫を行い、必要時には家族の協力を仰ぎたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室内、リビング内の室温、湿度、換気調整は適宜おこなっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部はバリアフリーで、共同スペース等、必要と思われる場所には手すりが設置されている。入り口の多くは引き戸で安全に配慮した造りになっている。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりに合った話し方や伝え方に工夫し、混乱しないように配慮している。カンファレンスで検討しケアに反映している。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭には、花、野菜を植え、草取りをしたり、花を摘んでテーブルに飾ったり、野菜を収穫し、下ごしらえをしたり、料理をしたのしんでいる。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>日々の会話から、思いや願いを探り、本人の意向を把握している。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>お茶の時間や食事時はゆったりと世間話しをし、入居者の皆さんが、話しに入れる話題を提供している。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>全ての入居者が自分のペースで暮らしている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>入居者同士の会話、職員とのふれあいを楽しみ、笑顔で過ごされている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>四季を通して要望を取り入れ、ショッピングや、ドライブを行っている。(インフルエンザ、ノロウイルスの流行時は控えている。)</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>早期発見、早期対応を心がけている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>状態の変化に合わせた、柔軟な対応をしている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>家族とは、常に連絡を取り合い、家族の思いに耳を傾けている。大方の家族からは信頼されていると思う。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p> <p>知人やボランティアの方が訪問してくれている。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p>町内会の行事等の招待を受けて掛けているが、住民の方々から、笑顔で迎えていただいている。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>①ほぼ全ての職員が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>笑顔を絶やさず入居者と向かい合っている。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>それぞれの入居者が、自由に自分の思いに沿って生活している。笑顔も多く見られ、サービスにはおおむね満足していると思う。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>行事や懇談会、日頃の来訪状態からみて、満足していると思う。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 介護理念に沿った生活が営まれるよう支援している。春、夏、秋は、中庭に花や野菜を植え、外気浴、散歩が楽しめるのどかな自然環境のなかで生活し、冬期は下肢筋力予防のため、屋内で体操、歩行運動を行い、ほとんどの入居者が自立歩行ができている。また、介護事故防止、感染症予防についてはマニュアルを整備し、シミュレーションを行い、全職員一丸となつてとりくんでいる。